

大学と学校との協働による 「主体的・対話的で深い学び」の実現を 目指す社会科学習プログラムの開発

国際文化学部
日本文化学科
教授
太田 清治



研究シーズの紹介

本研究は、まず、学生に中学校社会科学習指導要領の基本的な考え方や目標・内容の理解、学習評価の充実、学習指導案の作成、学習面からの生徒理解等についての理解を図り、次に、学生自身が、中学校社会科とSDGsとの関連を図った学習指導案を作成し模擬授業を行い、その後の反省に基づいて学習指導案を修正する。そして、その修正した学

習指導案を中学校教員等が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業の視点から修正し、検証を行うことにより、大学と学校現場が協働して中学校社会科学習プログラムを開発しようとするものである。



令和4年度（1年次）の 主な取組と成果

- 社会科学習プログラム開発に向けた資料・学習指導案の蓄積

①東日本大震災当時の釜石小学校の児童達の避難経路を現在の釜石市内の小学生を対象に「学校管理下で、どのように避難したか」を体験するフィールドワークと、東日本大震災当時の小学生（現在大人）と現在の小学生とが、「命を守ることの大切さを実感させ、大震災を風化させないという思いと次世代に防災意識をつなぐ」ということで実施されたパネルディスカッションに参加し、防災教育の新たな視点を見出すことができた。



フィールドワーク



パネルディスカッション

期待される活用シーン

- 講義を通じた学習指導案の作成、模擬授業、授業協議会での反省、学習指導案の修正



単元の目標や内容の理解の深化



社会科学習プログラム



- 社会科教員による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業の視点から学習指導案の修正と検証



SDGsという視点で教材を捉え、中学校社会科の授業を実施していくために必要な方向性



その他の研究テーマ

- 学習面、社会面、身体面から児童生徒を包括的に支援するプログラム（コグトレ）の実践研究